

連体修飾に用いられる「動詞＋ナイ・テイナイ」形式について

CIFTCI UMMUHAN (名古屋大学大学院修士)

要旨

現代日本語には動詞による連体修飾の一形態として、否定辞の「ナイ」が付き、主名詞の行状・性質・状態等を示す形容詞的な用法を持つものが存在する。それらは連体修飾要素でありながら、否定の意味を発揮する和語動詞由来のものであり、「ヲ」「ニ」「デ」「ガ」などの諸格を取らず単独のまま主体の状態・属性などを表す機能を持っている。

なかでも名詞を修飾する機能を担う場合の「動詞＋ナイ・テイナイ」形を観察することによって、この二つの形式の対立や分布を把握した。

本稿では、こういった形容詞的な特徴を持つ動詞に注目し、なかでも名詞を修飾する機能を担う場合の「動詞＋ナイ・テイナイ」形を観察することによって、この二つの形式の対立や分布を把握した。形容詞らしい特徴で姿を表す語の使用頻度を記述した結果、否定形を伴うことで自動詞の中でも無意志的な変化動詞の類が形容詞的な用法を持ちやすいことが明らかになった。形態的には「テイナイ」形より「ナイ」形の形容詞化した用法が使われやすく、用例数も「テイナイ」に比べて圧倒的に多かった。一方、無意志的な変化自動詞のなかでも「決まる」「汚れる」など、「テイナイ」形に偏る動詞もあった。どのような要因で「テイナイ」形に偏るのか、より詳細な考察が必要である。また「太らない」のように、「ナイ」形でのみ、変化主体以外の主名詞をとり、その属性を表す形容詞的な用法を示すものの存在も指摘した。

1. はじめに

現代日本語には動詞による連体修飾の一形態として、否定辞の「ナイ」が付き、主名詞の行状・性質・状態等を示す形容詞的な用法を持つ動詞形態が存在する。これらには「消えない・見えない・変わらない」などのような否定の意味を持つものも「つまらない・くだらない」などのように一語化して前接動詞の否定の意味を持たないものも含まれるが、いずれも「動詞＋ナイ＋名詞」形式構成で単独のまま形容詞的な働きが見られるものである。以下にこのような形態の用例を挙げる。

(1) 消えない疑問をぶつける部分を増やそうと、2日前に書き直した。

(2012年09月10日・朝日新聞)

(2) 古里はやはりいい。変わらない景色や空気、水にほっとする。(2012年02月25日・朝日新聞)

(3) その間、会社の方針が毎年毎月思いつきのようにコロコロ変わり、くだらないきまりも次々と作られ、振り回され続けてきました。

(2005年・Yahoo!知恵袋)

(1)の「消えない」、(2)の「変わらない」は、主体となる名詞の行状・性質・状態などにより連体修飾語の統語位置で主名詞を形容している。この用法の場合は時制と無関係で、主体に備わる恒常的な状態・性質を表す。(3)の「下らない」も同じく、「きまり」という主体の性質・属性を表す形容詞的な用法である。

和語動詞・漢語サ変動詞・複合動詞などいずれも見られるが、本稿では和語動詞を中心に考察を行う。本稿では、「ヲ」「ニ」「デ」「ガ」などの諸格名詞句を伴わず、基本形容詞と同様に、単独で用いられるもの、そして意味的解釈としても形容詞的な用法でとれるものを考察の対象とする。

ところで、全ての和語動詞が連体修飾の際に否定形を伴うことで、形容詞的に使用されるわけで

はない。

本稿では、どのような動詞が「ナイ」と接続して名詞を修飾しやすいのか、用例に基づいて検討し明らかにする。そして、ナイ型形容詞的動詞用法を持つ和語動詞の一覧表を作成する。また、以下の(4)のように否定の意味を持つ「動詞+テイナイ」形態にも名詞を修飾する用法が存在している。この2つの形式を対比しつつ、どのような動詞が固定的・慣用的に形容詞の性格で用いられるかを考察する。

(4) 決まっていない1種は、研究者で調整し、アジアから選ばれる。

(2010年09月17日・朝日新聞)

本調査において「ナイ」と「テイナイ」形をとる形容詞的用法が多く用いられる動詞を中心に、やや硬い書き言葉を含む「朝日新聞オンラインデータベース(1984年～2014年)」やヤフーブログのような話し言葉も多く含む、「現代日本語書き言葉の均衡コーパス(1971年～2008年)」の記事を対象とし、連体修飾節の一部にならずに自立した用法で現れる形容詞的なものを取り上げる。

2. 先行研究

現代日本語において述語性を失った動詞に関する研究としては高橋(1994)があり、連体修飾節では「かざり」と名付けた動詞の「ナイ」形と共に用いられる組み合わせについて以下の用例が表示されている。波線部分は「かざり」、二重線がある部分は「かざられ」と述べられている。ここでもナイを含むタイプの例が挙げられている(高橋1994, p.314)。

(5) 意味のはっきりしない不愉快事

(道169)

(6) 立場のきまっていない伸子

(道86)

但し、「はっきりしない」や「きまっていない」は連体修飾節の一部になっており、文中で形容詞的な働きをする単独用法ではない。「ノ」格を伴うことで、いずれにしても主語である名詞への関わりや連体修飾節への繋がりが生じる。

また、動詞の否定表現に関する研究は多いが、その中で形容詞的用法に触れるものはほとんど見られない。例えば工藤(2000)は「太郎は来ない」(動詞述語文)「太郎は若くない」(形容詞述語文)「太郎は親切ではない/学生ではない」(名詞述語文)における「来ない、若くない、親切ではない、学生ではない」のような形式を文法的否定形式、「不親切だ、無関係だ、非常識だ」のような形式を語彙的否定形式とし、区別している。慣用的なものや派生形容詞も含めて、様々な点で否定形式の特徴について述べられているが、修飾語となる場合に形容詞らしさを有する動詞否定形に関して言及はなされていない。

本稿では、否定辞「ナイ」やアスペクト形式の否定形「テイナイ」を伴って述語性を表しつつ、形容詞的な振る舞いも見せる単独用法の和語動詞に注目する。調査方法としては電子化コーパスを利用し、朝日新聞記事データベースを書き言葉として取り上げ、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(検索ツール「少納言」)から話し言葉に近い用例と考えられているヤフーブログ及びヤフー知恵袋、さらに国会会議録を対象に用例検索を行い、「動詞+ナイ+名詞」と「動詞+テイナイ+名詞」を含む形容詞的な用例を採集し、用例を分析する。そして、後接形式毎の使用頻度や使用傾向の高い動詞を明らかにすることを目標とする。

3. 考察

工藤(1995)においては、以下のように動詞が3つに分類されている。

- (A) 外的運動動詞—開ける・切る・殺す・食べる・遊ぶなど
- (B) 内的情態動詞—思う・信じる・見える・苦しむ・疲れるなど
- (C) 静態動詞—ある・いる・優れている・異なる・そびえているなど (p.69)

また、工藤(1995)は、奥田(1977)で述べられている、<主体の動作><主体の変化>という意味特徴による分類に従い、<動作>か<変化>かという観点と、<主体>か<客体>かという観点を組み合わせ、外的運動動詞は次のように3分類できると指摘している。

- (A・1) 主体動作・客体変化動詞—消す・倒す・曲げる・抜くなど
- (A・2) 主体変化動詞—行く・来る・消える・折れる・太るなど
- (A・3) 主体動作動詞—動かす・見る・揺れる・回すなど (p.71-72)

主体変化動詞(A・2)は基本的に自動詞であり、そのテイル形は<結果継続>を表すとされている。これらは否定辞を取ることで他の自動詞と比べて最も形容的な特徴を発揮する自動詞であるとされ、工藤(1995)において主体変化動詞の下位分類とされる「意志的な変化動詞」および「無意志的な変化動詞」として2つに分けられている。筆者もこの分類に従って、結果継続を表す自動詞の「ナイ・テイナイ」形を、本研究の対象とする。本稿の調査ではそのうち特に「無意志的な変化動詞(自動詞)」を対象とし、用例上それぞれの動詞が形容詞的な性格を持つか否かを検討する。

一方、意志的な動詞はヒトの位置や姿勢を表す変化動詞グループに属しており、自動詞であるにも関わらず「ナイ」「テイナイ」との単独用法が見られない動詞が存在する。連体修飾において、ヒトに対して用いられる意志的な変化動詞は自動詞であってもなぜ形容詞性を表す要素になれないのだろうか。それを確認するために、次の例文を見てみよう。¹

- (7) a. 別の部署に {移らない・移っていない} 人
- b. ?? {移らない・移っていない} 人

「移る」はモノの「無意志的な変化」やヒトの「意志的な変化」を示す動詞両方の意味用法を持つが、ヒトの意志的動作の場合、(7b)のように、自立した形容詞的用法では使用されない。(7a)のように二格など格成分を伴う必要があり、従って、連体修飾節の要素になってしまう。

ここで、意志的な動詞カテゴリーに属するヒトの位置・姿勢を示す変化動詞(自動詞)は、本研究で考察したいこととは異なる様相を見せるため、研究対象外とする。

3.1 和語動詞に伴う否定辞「ナイ・テイナイ」の形容詞的用法

能動形の否定表現である「ナイ・テイナイ」が修飾語として用いられる際、形容詞的な役割を果たす場合がある。ここでは、テンスやアスペクトから解放され、連体修飾語として基本形容詞と同様の機能をする和語動詞類を考察する。

以下の表①は、和語動詞の中で「ナイ・テイナイ」形を伴い、形容詞的な性格が現れやすい語の用例数を、その後接形式毎に示したものである。表①において「テイナイ」形が記載された欄に数多く

¹ ?は使用確率や使用頻度が低いことを示す。??は表現的に許容しにくいことを示す。

付いている△マークは、述語性が最も強く、動作動詞の特徴で現れた例文や形容詞的動詞用法で現れても諸格との使用が必要なものばかりであり、単独用法がほとんど見当たらなかったことを示す。

工藤(1995)の無意志的な主体変化動詞を対象に、形容詞的な特徴が見られる和語動詞の例文を抽出したものを以下の表①にまとめた。用例範囲は「ヲ・ニ・デ・ガ」などの諸格を伴わない単独で用いられるもの、意味的にも形容詞的な用法で解釈できる例文に限定する。主名詞については、「時・際・場合・理由・状態」のような形式名詞は除いた。また、動詞によっては形容詞的用法の主名詞となるものが限られるため、特定の名詞を対象とした数値である。(＊を付したもの)注²。

表①³ 和語自動詞+「ナイ・テイナイ」(形容詞的用法)

和語自動詞 「形容詞的用法」	「ナイ」(朝日) (1984-2014年)	「テイ(イ)ナイ」(朝日) (1984-2014年)	「ナイ」(少納言) (1971~2008年)	「テイ(イ)ナイ」(少納言) (1971~2008年)
売れる	50*	2	18	2
折れる	23*	△	10	△
終わる	27*	1	19	△
片付く	8	1	1	△
固まる	6	2	5	2
枯れる	25*	1	5	1
乾く	5	4	4	1
変わる	95*	16	31	3
切れる	17	3	11	△
腐る	24	4	2	1
崩れる	20	4	8	△
消える	37	△	14	△
壊れる	14	10	11	1
死ぬ	12	2	15	1
揃う	6	2	3	△
倒れる	14	1	5	△
潰れる	15	2	5	△
溶ける	8	△	6	1
止まる	41*	1	17	△
治る	27*	△	26	△
濡れる	8	6	3	1
曲がる	15	1	5	△
破れる	6	1	3	1
割れる	21	4	8	2

² 特定の名詞に限定されたものは、例えば、以下の通りである。「売れない商品・折れない心・終わらない戦争・枯れない花・変わらないもの・止まらない涙・治らない病氣・繋がらない打線・慣れない環境・燃えないゴミ・見えないもの・足りない部分・つまらないミス・すまない気持ち・すまないこと・動じない心・至らない点・かまわないもの・かまわないこと」などが挙げられる。

³ 表①に記載した自動詞は形容詞的な用法で少なくとも5例以上出現したものである。×は新聞記事データベースやコーパスに一件も載っていないものを表す。また、表①中の薄い網掛けは「ナイ」、濃い網掛けは「テイナイ」との共起が多いものを表している。

連体修飾に用いられる「動詞+ナイ・テイナイ」形式について

汚れる	9	16	4	5
埋まる	14	△	2	2
重なる	8	△	1	△
繋がる	20*	7	5	△
落ちる	19	1	1	1
外れる	11	△	4	△
上がる	12	△	1	△
出る	27	9	5	△
届く	32	4	2	1
慣れる	128*	7	71	3
現れる	7	△	5	△
燃える	112*	7	25	1
滑る	38	△	5	1
錆びる	20	2	13	△
見える	175*	13	131	2
決まる	8	15	2	5
足りる	193*	3	53	1
下る	150	×	79	×
詰まる	63*	×	134	×
堪る	53*	×	19	×
解ける	26*	△	18	△
済む	68*	△	22*	△
動じる	26*	△	24	△
そぐう	20	×	25	×
至る	26*	△	20	△
絞まる	11	△	4	×
構う	38*	△	10*	×

以上の表①は「デキゴト・モノゴトの状態・性質を表す機能を持つ和語動詞」を整理し、否定辞と使用が可能な自動詞の中で、具体的にどのような語句が、形容詞的用法として現れやすく、一般的に用いられるかを判定した表と言える。

3.1.1 主体の選択

上記の通り、用例調査では修飾される主体とした名詞として「時・際・場合・理由・状態」などのような形式名詞を除いた。このような名詞が主名詞となる場合、述語性の強い用法になり、形容詞的な意味解釈とならない。必ず時制を伴う動詞的な意味用法として実現する傾向、つまり形容詞的な用法から離れる形式になると考えられる。このことから、被修飾語となる主体にも制限があると言える。

例えば、以下の(8)は主体として「場合」が用いられる用例である。「出ない」の主体として文脈上「松露が」の非表示例であって本稿の対象外となる。(9)では主名詞⁴「水」の状態を表す用法であり、

⁴ 主名詞とは連体修飾節において形容される主体・被修飾語を意味する。形容詞的な意味解釈を取らない場合の名詞は「主名詞」と言えない。そして、動詞との意味関係も踏まえると、以下において(8)に見られる主体の使用は主名詞の対象とならない。

形態上、単独用法としての条件も満たしている。従って、本稿の考察対象に相応しい形容詞的な役目で用いられる用例だと思われる。

(8) しかし、あきらめるのは、まだ早い。専門家によれば、松露が姿を見せる期間は、冬から春と幅広い。出ない場合への対策もある。(2004年01月16日・朝日新聞)

(9) 混乱の中で、新しい命が次々に生まれている。出ない水、不足する食べ物や医薬品。(1995年01月21日・朝日新聞)

3.1.2 「ナイ・テイナイ」の比較

上記の表①を元にして「ナイ・テ(イ)ナイ」形を比較すると、朝日新聞・現代日本語書き言葉コーパスの両者においてほぼ同様の結果が見られる。すなわち、「ナイ」形が「テイナイ」形に比べて形容詞的用法を取りやすく、用例の数値としても圧倒的に多いということが確認できる。

以下で具体例を示す。(10)から(15)の例は、形容詞らしい用法であり、文頭のみならず文中にも単独のまま用いられていた。

(10) 切れない刃物で切れば、枝の組織が潰れてしまいますから。(2002年・中学教育・武内俊介)

(11) 年を重ねても変わらない気持ち、さめない気持ちはあるんだなあ〜と実感しました。(2003年・Every Little Thing編)

(12) 繰り返し発生する地震で多くの死者を出した日本は、倒れない家を目指して、耐震基準という「標準仕様」づくりを重ねてきた。(2002年03月10日・朝日新聞)

(13) 「溶けないアイスクリーム」。大学生がそんなテーマで研究した卒業論文をもとに新商品が誕生し、病院や高齢者施設が給食に出し始めた。(2014年04月02日・朝日新聞)

(14) 歩行や耳は少し不自由になっていたが、崩れない言葉遣いと声の張りが、女優、アナウンサーとして生きた道程を語っていた。(1992年02月13日・朝日新聞)

(15) 売れない車を売ることができて・・・ほっとした一日でした。(2008年・Yahoo ブログ/芸術と人文/文学)

一方、「ナイ」と「テイナイ」形を置き換えた場合、不自然になる用例も存在する。(15)において「売れない」を(15)の「売れていない」に置き換えるとアスペクト的な未完了の解釈となり、発話者が現在の様子を述べている意味となる。従って動詞「売れる」の場合「ナイ」形の方が基本形容詞の役割を持つものとして選択されると思われる。

(15)' ?売れていない車を売ることができて・・・ほっとした一日でした。

「消えない」はかなりの数が名詞を修飾する形容詞的用法で出現したが、「消えていない」は32件の内、連体修飾語として用いられたのは1件であった。それが(16)だが、この場合は「いまだ」という副詞と共起する必要があり、副詞との共起がある状態では意味的にアスペクトに関わって、単独形式にもならないと考えられる。このため「消えていない」は形容詞的用法より述語動詞としての使用に偏っていると考えられる。

(16) 姫だろうがなんだろうが、住む場所が必要なのよ！と、自分の二年たってもいまだ消えていないプライドにひとしきり言い訳をしてから(下略)(2001年・書籍/9文学・鏡貴也)

なお、用例をカウントする際、「まだ・今も・未だ」などのような副詞との共起が見られた例文は時制的意味に関与しており、形容詞的な用法の範囲に入っていないと判断し、例数の割合として算出しなかった。

また、形容詞性の特徴を発揮する自動詞の中には、日常談話や新聞では使用率がやや低い動詞も存在する。「片付く」はそのような動詞の一つであり、否定形の「片付かない」+「名詞」形式は197件中、8件のみ単独用法で出現した。「テイナイ」形の場合は、59件の内、自立した修飾語としては1件しか見当たらなかった。(17)はその用例である。

(17) 片付いていない実家が嫌で、私はできるだけ避けていたが、最近、それではいけないと思うようになった。(2008年12月06日・朝日新聞)

以上に対して、「ナイ」形と「テイナイ」形の選択には、同じく「テイル」形で結果継続を示す自動詞であっても、動詞ごとに違いがあると考えられる。例えば、「温まる・空く・濁る・禿げる・裂ける・冷める・散らかる・爛れる・煮える・腫れる・冷える・広がる・老ける・ふさがる・むくむ・むける・痩せる・焼ける・やつれる・沸く・別れる・植わる・埋る・隠れる・かかる・被さる・下がる・積もる・寄る・立つ・つく・乗る・挟まる・混ざる・千切れる・取れる・抜ける・離れる」などのような自動詞は、単独用法がほとんど見当たらなかったものか、両方のコーパスにおいて「ナイ」形を伴っても諸格と共に一・二例しか出現しなかった動詞である。よって、用例数という観点から考えても、このタイプの自動詞の場合、「ナイ」を伴った形容詞的用法としての使用率はかなり低いと言える。だが、以上の自動詞の中には、文脈によって逆に「ナイ」形より「テイナイ」形との共起が相応しい動詞も存在する。用例として「空いていないビン・痩せていない女性・沸いていない水」などが挙げられる。

また、表①において「テイナイ」形との共起が他に比べて多く出現した「変わる・壊れる・汚れる・決まる」は他の動詞と異なり「テイナイ」形を取った形式がより形容詞性を強く持つことが分かる。これらの語は、形容詞性を帯びる際、固定的に「テイナイ」形で使われてきたと考えられる。ほかに、「濡れる」も偏りは顕著ではないが、(18)(18)'のように、テイナイ形をナイ形に置き換えにくい用例がある。以上のような偏りが何によって生まれるのか、また、テイナイ形を取る条件についてもより詳細に考察する必要がある。

(18) たとえば、ぬれていない手で乾電池(かんでんち)のプラスとマイナスをつかんだとき、体に流れる電流が数百マイクロアンペアぐらい。(2004年01月31日・朝日新聞)

(18)'たとえば、??ぬれない手で乾電池(かんでんち)のプラスとマイナスをつかんだとき、体に流れる電流が数百マイクロアンペアぐらい。

3.1.3 「動詞+ナイ+名詞」形式の別用法

一方、「ナイ」形を伴う他の動詞類と同じ自動詞であるにも関わらず、連体修飾において次のような異なった用法も現れる。例えば、「太る」という状態や性質を表す自動詞に関して、「太らない」形の検索において採集した用例は(19)(20)に示すように「太らないおやつ・太らないメニュー・太らない生活・太らないコツ」などのような語句での使用に偏って見られた。この場合、単独のまま名詞を修飾する語であるが、意味の面では主名詞自体が太るわけではなく、つまりおやつ・メニュー・生活やコツが「太る」という意味解釈でなく、「太る」の一般的な変化主体である「人間」を太らせない現象・モノゴトなどの属性を指示する用法だと思われる。この点を踏まえると、否定形の場合は「ヒト」

以外の主体を修飾する形容詞的用法を顕著に示す類があると考えられる。

(19) おいしいものを前にしてじっと我慢しなくてもすむように、太らない生活を工夫してみよう。

(2001年12月07日・朝日新聞)

(20) 今後もおいしいお弁当よろしく、太らないメニューでね。

(2008年05月10日・朝日新聞)

(19)は主体として「ヒト」を取っている。元々の形容詞的な使い方であり、先ほど述べたような形式だと認められる。

(21) やせたいと思い、食べるのをがまんしている人には、太らない人は、なんともうらやましい限りだ。

(1996年05月10日・朝日新聞)

(19)と(20)は「太らない」というナイ形において、「太る」変化主体(ヒト)ではなく、主名詞の「生活」や「メニュー」の属性や性質を反映している点で、形容詞的な用法を表していると考えられる。

「太る」のようにナイ形においてのみ形容詞的用法を示す自動詞はほかにも存在し、この点に関してもより詳しく考察する必要があると考えられる。

工藤(1995)において、無意志的な変化動詞(自動詞)として分類されている動詞以外にも、主名詞を形容する形容詞的用法を持つ自動詞がいくつか指摘できる。例えば「見えない」は修飾語としての用法が非常に多く現れる動詞の一つである。こういった形容詞性特徴を持つ様々な動詞として、「見える、消える、変わる」も表①に入れ加えた。文頭や文中における「見えない」の例文は以下の通りである。

(22) 心が変われば世界はきっと変わる。見えない世界ってどこにあるの？おまえのすぐ近くにあるんだよ。

(2002年・書籍/3 社会科学・古川千勝)

(23) 内視鏡は光を使いますが、見えない光を使って外から体の中を診ることも可能です。

(2005年・書籍/4 自然科学・寺川進)

3.1.4 否定の意味を持たない「動詞+ナイ」形式の形容詞的用法

以上の形容詞的用法を持つ自動詞の他、連語あるいは語彙化したともされ、本質的に固定化したものとして認められる「くだらない、つまらない、どうじない、かまわない、たまらない、たりない、ほどけない、すまない、そぐわない、いたらない、しまらない」などのような動詞の未然形に「ナイ」形が付いた形式の類も存している。これらの形式は語源が自動詞として使用される要素であり、否定形を伴う形式のまま自立した基本形容詞にもなっているものである。

工藤(2000)において、「このような形式は、もはや、否定の意味がない「派生形容詞」とみなさなくてはならない」と述べられている。そして、動詞の否定形式から形容詞への品詞の転成が起こっている形式であり、派生形容詞化していくものだと主張されている。

(24) もう余計なことに時間は使うまい、詰まらない仕事やどうでもいいような人づきあいは一切やめよう決心するのだが(下略)

(1991年・書籍/9 文学・桐島洋子)

(24)' もう余計なことに時間は使うまい、??詰まっていない仕事やどうでもいいような人づきあいは一切やめよう決心するのだが(下略)

(25) 至らない点もあったのかも知れませんが、私は、母のおかげで今の自分があると思っています。

(2005年・Yahoo!知恵袋)

固定化した形式の場合、(24)' のように「テイナイ」形の使用が不可能である。前節で見た動詞の中でも、「ナイ」形に偏る動詞は、固定化へ進む可能性があり、派生形容詞の成立条件について考える際にも、本稿のような考察が欠かせないと考える。

4. おわりに

本稿では、動詞に「ナイ・テイナイ」が付いた際に形容詞的な働きをする語について調査し、和語動詞の「無意志的な変化動詞（自動詞）」のうち、形容詞らしい特徴を伴って姿を現す語句の使用頻度に関して考察を行った。そして現代語では多く用いられる、否定の意味を表さないが、否定辞の「ナイ」を伴った形で一般形容詞の特徴を発揮する動詞も整理し、量的な視点から形容詞としての使用への偏り状況も検討した。

その結果、否定形を伴うことでどのような自動詞が名詞を形容する際に最も形容詞らしさを見せ、修飾語として優先的に選択されるのかが明らかになった。自動詞の中でも変化動詞という類が形容詞的用法を持ちやすいといえる。形態的には「テイナイ」形より「ナイ」形の形容詞化した用法が使われやすく、用例数も「テイナイ」に比べて圧倒的に多かった。用例上も、名詞修飾に用いられる「ナイ」形の最も形容詞らしい性格を確認することができた。一方、「決まる」「汚れる」など、「テイナイ」形に偏る動詞もあった。どのような要因で「テイナイ」形に偏るのか、より詳細な考察が必要である。

形態的には否定の「ナイ」形を含み、意味的にはもともと否定的な意味の解釈に端を発するが、固定化して否定の意味を持たない動詞（つまらない・くだらない・ほどけない）も存在している。これらのタイプは固定化したものであり、現代語において慣用表現として用いられるケースが少なくない。しかし、こういった類がどのような過程で、現代語に定着したかは明確ではない。成立過程についても本稿で見たナイ形の形容詞的用法とのかかわりを考慮に入れながら検討すべき項目であると思われる。

また、修飾される主体の種類にも関わる現象があった。主体が「ヒト」である限りは諸格の必要性が生じやすいため、考察の対象外と判断した場合もあった。一方、「太らない」のように、ナイ形でのみ、変化主体以外の主名詞をとり、その属性を表す形容詞的用法を示すものの存在も指摘した。

チフトウチ (2015) では、動詞のタ形、ラレル形など、様々な形式で実現する形容詞的用法を包括的に記述把握し、動詞が「テイル」形を取ると形容詞的な特徴を発揮しにくいという結論を得た。この点から見ると、否定形の「テイナイ」も同様の様相が観察された。「ナイ」形を含まない場合と同じく、テイル（テイナイ）形は文中ではどうしてもアスペクトに関わる要素になってしまうため、形容詞的な性質が弱くなるのだろう。

一方、連体修飾に用いられる漢語サ変動詞の「結婚する」「離婚する」のような漢語は、否定辞の「ナイ」形を伴うより「テイナイ」形を伴った形式の方が典型的な形容詞の性格を有すると思われる。以下において(26)は「テイナイ」を伴った形で形容詞的である。置き換えた(26)' は意味的にどうしても未来の意味解釈しか取らないものであり、この場合は形容詞的な用法ではない。

(26) ラッドがサンタバーバラの上級裁判所の判事に任命されたのだ。すると突然ブラッドは、結婚していない女性と暮らしていることはまずいのではないかと思うようになった。

(1995年・プレッシング・ダニエル・スティール)

(26)' ラッドがサンタバーバラの上級裁判所の判事に任命されたのだ。すると突然ブラッドは、??結婚しない女性と暮らしていることはまずいのではないかと思うようになった。

さらに、本稿では触れなかったが、日本語では否定的意味を表示するために漢語とともに「不・無・非・未」などのような漢語の否定接頭辞も多く用いられ、漢語の場合むしろこれらの接頭辞が「ナイ・テイナイ」形より幅広く使用されている。例えば、「不安定・非常識・未婚者」などが挙げられる。こういった用法が生まれたからこそ、漢語が「ナイ・テイナイ」形を取りにくく、否定接頭辞と共に用いられるようになったのだと思われる。

また一方、現代語においては、他動詞の場合、「受身」や「可能」を表す「(ラ)レル」⁵形と共に起る否定形式があり、形容詞的な働きをする(チフトウチ 2015 第2章)。これらは「他動詞+ラレ+ナイ」という形で「許されない・隠されない・信じられない」のようなものである。

(27) 未来と過去を行き交う冒険ストーリーを見て手に汗握り、許されない愛ゆえに死を選んだ恋人たちに涙しました。
(1992年・それいけ!! ココロジ-編)

(28) 信じられない光景だった。母は紺色のスカーフを頭にかぶり、あごの下で結んでいた。
(1993年・書籍/2 歴史・ユン・チアン)

また、語末に「ナイ」を含む「切ない・揺るぎない・もったいない・とてつもない」などのような慣用句的なものも現代日本語において観察され、形容詞的な表現の一つと言える。

(29) 相手への想い、切ない気持ち、失恋の傷手、恋人と二人で過ごすときの楽しさ、満たされた幸せな気持ちなど、同じです。
(2005年・Yahoo!知恵袋)

(30) 「人は信じなくても自分だけは信じる」という強烈なエネルギーが一人ひとりに伝わり、揺るぎない経営理念として確立されていくのです。
(2002年・書籍/3 社会科学・田舞徳太郎)

(31) 日本人は世界一素肌が綺麗だといわれているのに、なぜ、厚くメイクを重ねるのでしょうか。もったいない話です。
(2003年・書籍/1 哲学・浅野裕子)

最後に、複合動詞においても「目立たない・あり得ない」などのように否定辞を伴った形式で形容詞的な性格を発揮するものもある。以上の様々な項目に見られる意味的・形態的な特徴を今後の研究課題としたい。

参考文献

- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって」『宮城教育大学 国語国文』むぎ書房
 工藤真由美(1995)「現代日本語の時間の表現」『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
 工藤真由美(2000)「時・否定と取り立て」『日本語の文法2』岩波書店
 高橋太郎(1994)「動詞の動詞らしさの発展と消失」『動詞の研究』むぎ書房
 チフトウチ ウムハン(2015)「第二章 現代日本語における形容詞的動詞 - 和語動詞+「ラレル」「ラレテイル」「ラレタ」形を中心に-」『現代日本語における形容詞的動詞をめぐって- 連体修飾の「ル」「テイル」「タ」形を中心に-』名古屋大学大学院文学研究科博士学位請求論文

用例出典

- 朝日新聞オンライン記事データベース『聞蔵(きくぞう)・ビジュアル』
 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」『少納言』<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

⁵ 五段活用動詞に接続する「レル」も含めて「(ラ)レル」形と呼称する。